

協栄製作所の株式取得、子会社化は 日東精工グループの躍進へとつながっています

当社日東精工では、ファスナー事業領域の拡大を掲げており、
そのために開発力、営業力を強化すべく邁進しています。
その施策の一つとして、昨年2016年10月には、奈良県五條市に
本社をおく協栄製作所の株式を取得、子会社としました。
今号はこの協栄製作所についてピックアップして紹介していきます。



協栄製作所 代表取締役社長 川名輝夫

協栄製作所は日東精工ファスナー事業部と同じく工業用ファスナー(ねじ)を中心に冷間圧造製品を製造販売するメーカーです。日東精工が0.6ミリ~12ミリのねじを主に扱うのに対し、協栄製作所は6ミリ~24ミリとサイズが大きめのねじ、ボルトなどを得意とするもの。また日東精工の製品がほとんどお客様のオーダーに応える特注品であるのに対し、協栄製作所は標準品と特注品のプロダクトミックスを推し進めています。



創業は昭和21年。当初は切削でねじをつくっていましたが、その後、圧造にて「六角ボルト」や「長ねじ」「コーチスクリュー」を開発し、それが高い評価を得て協栄製作所の主力製品となっています。軸力が強いなどの特性を生かし、今でも住宅関連を中心に自動車分野など幅広いニーズに応えています。

創業から平成の初めまでは、ねじの町・モノづくりの町のイメージが強い東大阪に本社・工場をおいていましたが、業容拡大で手狭になり、また近隣の住宅への環境面での配慮から、平成4年(1992年)に現在の奈良・五條市の工業団地に工場を移転、そして平成11年(1999年)には同地に本社も移転をしています。



ねじの材料 そのものもつくる、 一貫生産が強みです

同社が他社と異なるいちばんの強みは何かを、川名輝夫代表取締役社長に聞くと「伸線から最終製品までの一貫生産。他社でこれをしているところはほとんどない」との回答を得ました。

ねじを大量生産する場合、一般には原料となる線材を引き抜き加工して鉄線を作ります。日東精工を含め多くの会社はこの伸線済の線材を用途に合わせて伸線メーカーから購入しているのですが、協栄製作所ではこの伸線そのものも自社で扱って

いるわけです。右写真が「酸洗ライン」です。

線材を「酸洗」「被膜処理」「伸線」という工程を経て、ねじ材料ができあがります。こうすることで歩留りもよく、トータルコストダウンが図れるだけでなく、急な受注があっても原材料をすぐに手配できるスピーディ対応ができるのです。伸線から圧造、熱処理、検査、梱包、出荷まで一貫して製造販売している。さらにそれに加え、本社工場（奈良）、埼玉工場と2拠点を有することも同社の強みとなっています。



当社日東精工が協栄製作所をグループに編入、子会社化するメリットは連結の売上が上がるということだけでなく、商品のラインナップが増え、より提案型の営業がしやすくなるということでしょう。それぞれの得意分野を生かしたシナジー（相乗）効果が得られます。

日東精工では直径が6ミリ以上のものを太モノと呼んでいます。日東精工グループ内には太モノをメインとする「東洋圧造」（2016年7号で紹介）がありますが、連携強化をしていくことで、この分野がより強固なものとなるでしょう。

新しい化学反応を期待

日東精工は人づくりに力を入れています。地域の技術者の底上げのために「綾部工業研修所」などを設けているのはすでにこのニュースレターでもご紹介していますが、協栄製作所にも同様のDNAがあり、大阪府立能率研究所や工業高校、職業訓練校などの協力を得て、「協栄技術専門学院」を開講した歴史があります。今もQC活動は盛んですし、かつては電気自動車クラブを設立し、就業後、既存の自動車を改造してコンバートEV車を作製したこともあります。最近は「ドローン」がテーマになっています（ちなみに完成したEV車は学校へ寄贈し若い技術者への目標にしています）。

ねじという共通キーワードはあっても、これまでは別会社でほとんど接点がなかったのですが、ベースに流れているモノづくりへの姿勢は同じです。今後、さらに人的交流などが深まれば、目を瞠るものがたくさん生まれていくことは、まず間違いありません。

●株式会社 協栄製作所

〒673-0014

奈良県五條市住川町1387（テクノパーク・なら内）

<http://www.neji-kyoeiseisakusho.co.jp>

個人投資家様向け説明会を開催しました。

日東精工では東京・日本橋の日本投資環境研究所で、「決算説明会」を定期的で開催しています。これはアナリストや機関投資家、メディア関係者を対象にしたもの



ですが、広く一般の方にも当社の事業内容をご理解いただくために、5月26日は

福知山、6月3日は大阪で個人投資家様向け説明会を開催。当社代表取締役社長材木正己が、解説を

させていただきました。本社近くの福知山会場では「地元の企業をますます応援したくなった」とありがたい言葉を頂戴しました。当社では今後もすべてのステークホルダーを大切にしていまいます。



あやべ市民新聞で大特集 当社事業内容を地域にアピール

あやべ市民新聞は、日東精工本社のある綾部市ではじつは読売や朝日などの全国紙よりも多くの人に購読されている新聞で、当社のことも折に触れて紹介していただいています。6月1日の「ねじの日」を盛り上げる協力が得られ、5月29日の4面では1ページすべて（全15段）を使って、たとえば当社のファスナー製品（工業用ねじ）が、講談社の『週刊アトムを作ろう！』（ATOMの人口知能ロボット）に採用されていることや地盤調査機「ジオカルテ」のマレーシアでの産学連携の取り組みなどが記事掲載されました。



また、同紙には、「ねじチョコ」プレゼントキャンペーンも併せて紹介いただき、そのおかげもあって「地元 綾部が誇る

日東精工、ねじチョコを手にとらないわけにはいきません」「地元の企業が大きく飛躍するのを嬉しく思っています」「『ゆるまないねじ』など日東精工製品がアピールされ地元住民としてはうれしいです」と綾部市民の方から多数ご応募がありました。当社では今後も国内外に拠点を広げその地域に根差した事業活動を推し進めていく一方で、創業の地である綾部に本社をおいて、地元への地域貢献も果たしていきたいと考えています。



広島営業所開設で 販促をより強化なものに!

これまで中国・四国・九州エリアについては、当社では大阪支店もしくは京都綾部の本社からの訪問でしたが、この度、7月6日にJR広島駅すぐそばに広島営業所を開設しました。ファスナー、産機、制御システム、それぞれの事業の担当販売員を置いて地域密着の提案型営業を心がけ、自動車分野を中心に化学、鉄鋼、食品分野まで、スピーディできめの細かい対応やサービスを提供し「お客様満足度120%」を目指します。



開所にさきがけ6月24日には全国紙中国・四国版で大々的に当社の企業広告を展開しました。

書籍印税をもとに今年も 綾部市図書館に児童書を寄贈します

当社の人材教育をもとにした一般ビジネス書『人生の「ねじ」を巻く77の教え』は、発売から3年経った今でも継続して売れており、今年もこの書籍の印税をもとに、綾部市図書館に絵本・児童書を寄贈することが決まっています。

詳しいことは次号でご紹介予定ですが、今年の寄贈式には出版元のポプラ社だけでなく、作家の柳田邦男氏が会長を務める絵本文化推進協会にも協力をいただく予定です。「ねじはモノとモノをつなげる、そして絵本は次世代へとつなげる」をコンセプトにはじめた地域貢献の試みが、年々広がりをみせスケールアップしています。



将棋から学べるビジネスヒント
〜ルールはわからなくても得られるものいっぱい〜

わずか14歳、中学生の藤井聡太四段が史上最年少でプロ公式戦連勝記録をつくるなど、今、将棋界が大変盛り上がりつつあります。

皆さんは将棋にどれくらい興味がありますか？ 駒の並べ方もわからないという人もいるでしょう。それでも、じつは、皆、ふだん気がつかないところで将棋由来の言葉を使っています。「高飛車（な態度）」とか「成金（趣味）」もそうですし、「結局」とか「必至（必死）」それに「詰め（が甘い）」なども将棋の言葉です。

そして将棋からビジネスヒントも得られるのです。たとえば「勝ちを意識すれば前向きになる、元気になる」……将棋は今を見ながら先をどんどん読んでいくものです。その場にとどまっていたり、後ろ向きではじまりません。自ずと気持ち元気になれるということです。また名人戦などは持ち時間がひとりで7時間、2日



このコラムは当社日東精工の人財教育に約40年携わっていただいた経営コンサルタント蒲田春樹氏が監修した言葉や教えを経営企画室で再編集して紹介するものです。なお、当法人財教育を一般向けにまとめた「人生の『ねじ』を巻く77の教え」(ポプラ社)も版を重ね、国内だけでなく海外版も発行されています

間の長期戦です。戦略、戦術、集中力だけでなく、体力も必要になります。仕事においても先を見据えて、集中力を高めていきましよう。気持ちを前向きにもって健康にも留意したいものです。

そのほかにも「定跡を学ぶことが基本」「直感精読、最善手を見つめる」「敗北も成功の母」「待つことの大切さを学ぶ」と「美しいものは正しい」といったキーワードなども生きるヒント、ビジネスヒントになるでしょう。

将棋が話題といってもテレビなどでは、勝負の結果や勝負飯に何を食べたかなど、表面的なことばかりですが、じつは深掘ができるのです。ぜひ皆さんも将棋というキーワードで自らの話題で終わらずに、自分に役立つヒントを見つけてください。



フォークの神様と綾部 水源の里

ねじのある街・あやべの魅力

「山谷ブルース」などで一世を風靡した岡林信康。フォークの神様と呼ばれることへのプレッシャーから解放され、自らを見つめるために、大都会から距離を置き、田舎暮らしをしたことがありました。その場所が当社、本社がある綾部市の上林地区です。彼の曲には『橋』、実録、仁義なき寄合い』がありますが、これは老朽化した橋を修理するには金がかかる、いつそ嵐の晩にわざと橋を壊せば補助金が出る、いやいや別の村で同様の手口がばれて大変だったなどと、村のお年寄りが、あくでもない、こうでもない酒を酌み交わしながら相談する様子を、実名入りでユーモアたっぷりに歌ったものです。もちろん、實際、橋の架け替えに不正は行われず、岡林が経済的援助もしたそう。綾部高校出身の世界的ドラマーで、藤井フミヤやスガシカオ、小泉今日子などと交遊のある音楽プロデューサー屋敷豪太さんも、今後当地を拠点のひとつにされると聞いています。

あやべはミュージシャンゆかりの地でもあるのです。

ねじ大好き!

コラム

ネジバナ

今年も可憐に咲きました

昨年この欄で名前に「ねじ」の名がつく植物「ネジバナ」を紹介しました。

～全国津々浦々に分布、自生しているのですが「ねじ」がふだんあまり意識されないけれど大切なもののように、ネジバナも身近過ぎて、つい見落としがちかもしれません～と掲載した後に、なんと当社本社のエントランスにも咲いていることに気がつきました。

灯台下暗しですね。そして、今年も咲いています。きれいな花です！らせん状に可憐な花を咲かせています。

